

信州経済

山京インテック (飯田市)

ビジネス 交差点

在庫部品の管理システム開発

電子機器組み立てなどの山京インテック(飯田市)が、部品の出入庫や在庫状況をコンピュータで管理する製造業向けシステムの販売を強化している。同社はセンサーの組み立てなどを主力にしているが、円高の影響などで製造業の海外シフトが進み、下請けは縮小傾向。そのため、独自の管理システムを開発し、品

質管理への信頼を高めて生き残りを図る中小企業など売り込む方針だ。

システムでは、在庫部品に付けたバーコードや電子タグを専用端末で読み取り、各工程の作業票と間違いないか確認できる。情報は無線通信でパソコンに集め、部品の使用情報などを管理。同社はパソコンや周辺機器に組み入れる専用ソフトウェアの開発を含め、顧客ごとにシステムを設計して納入している。誰が、いつ、どの生産ラ

品質管理強化で売り込み

インで部品を使ったのか把握でき、トレーサビリティ

(生産履歴)の管理もできる。部品にも多い航空宇宙産業向けシ



部品の情報をバーコードで読み取り、出入庫や在庫の状況を把握する山京インテックの管理システム＝飯田市

システムも昨年作成し、売り込みを強めている。

システムの周辺機器も強化しており、バーコードの不良を見分ける検査機器を今夏に発売。これまで目視でバーコード情報を読み取るか検査していた工程を省力できるようにした。機械系製造業のほか、医薬品を病院に供給するため在庫管理システムを利用している製薬会社から、問い合わせがあるという。

山京インテックの2011年3月期の売上高は約12億円で、うち独自事業の割合は25%。中村拓実社長は「組み立て部門は、取引先の海外移転などで収益が左右されやすい。先行きの不透明さに備え、独自事業を強化したい」としている。